万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部
〒160-8582　東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802　FAX:03-3355-4707
発 行 者：今野弘之
編集責任：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部事務局長
八木　洋（慶應義塾大学医学部外科学教室）
印　刷：株式会社 dig　TEL:03-3551-3060
年 2 回発行 1995年 4 月創刊

Welcome Message

President ISS/SIC
Cheng-Har Yip

It is a great honour for me to provide a message to the Japan Chapter of the ISS/SIC.

First of all, for those who do not know me, I am a consultant breast surgeon in Kuala Lumpur Malaysia. I was installed as the President of ISS/SIC at the 49th International Surgical Week in Vienna in August 2022. I was also the President of the Breast Surgery International, an integrated society of the ISS/SIC from 2015 to 2017. ISS/SIC has 6 integrated societies, 5 participating societies, and 8 associated societies from all over the world. ISS/SIC has also formed partnerships with the G4 Alliance and the International Federation of Surgical Colleges, and we remain committed to the goal of global surgical education particularly in low- and middle-income countries.

I would like to introduce our new council for 2022 to 2024. The Executive Committee comprises the President, President-Elect Dr Ari Leppäniemi, Immediate Past-President Dr John Hunter, Treasurer Dr Gerard Doherty, and Secretary General Dr Kenneth Boffard. The Councillors-at-Large are Dr Hiroyuki Konno, Dr April Camilla Roslani, Dr Albert Tuchmann, and Dr Susan Hill. The other councillors are the Presidents of the Integrated Societies, Dr Owen Ung (BSI), Dr Jan Zedenius (IAES), Dr Steven Wolf (IASMEN), Dr Jamie Murphy (ISDS) and Dr Milliard Debrew Beyene (ASAP) Also in the Council are Dr Julie Ann Sosa, Editor in Chief of World Journal of Surgery, and Dr Michael G Sarr, Secretary Treasurer, ISS Foundation. Our ISS/SIC Council members come from all corners of the world, with 4 women members as well, demonstrating the commitment of ISS/SIC to diversity, equality, and inclusion.

The ISS/SIC has created a Fellowship of the ISS/SIC (FISS) to provide recognition for those providing the highest standards to which we aspire. I do encourage those who have been members for more than 5 years to apply for FISS at the website http://iss-sic.com/membership/fellowship.html

There are currently 200 ISS/SIC members from Japan, which is the second largest membership, after the United States of America. Despite the Covid 19 restrictions in Japan, I am pleased to see that there were 44 Japanese nationals who registered for the ISW in Vienna. I do hope that members from Japan will continue to support the ISS/SIC and to increase the membership of the society. I look forward to welcoming you to the ISW 2024 in Kuala Lumpur, which will be held from 25 to 29 Aug 2024.

Cheng-Har Yip
President ISS/SIC

万国外科学会（ISS/SIC）名誉会員 比企 能樹 教授 を偲んで

浜松医科大学　学長
National Delegate
今野　弘之

万国外科学会（ISS/SIC）の名誉会員であった北里大学外科名誉教授の比企能樹先生が 10 月 14 日にご逝去されました。ここに謹んで比企先生の功績を称えると共に、これまでの先生の歩みについて簡単にご紹介申し上げます。

比企能樹先生は、1933 年 7 月 28 日に東京でお生まれになり、1958 年慶應義塾大学医学部を卒業後、慶應義塾大学大学院に進学し、外科学を専攻されました。 1963 年から 1967 年まで慶應義塾大学外科の助手として研鑽を積まれる間、ドイツの Kiel 大学外科に助手としてご留学をなさいました。帰国後、1967 年に慶應義塾大学内視鏡検査室長にご就任され、1971 年からは北里大学医学部外科の教授をお勤めになり、1999 年からは北里大学の名誉教授にご就任されました。

先生は内視鏡学、消化器外科学、外科腫瘍学、早期消化器癌の診断と治療、消化管癌の内視鏡治療（レーザー、腹腔鏡手術、ロボット手術）等の幅広い分野で数多くの業績を上げられ、国内外の多くの要職を歴任されました。代表的なものだけでも、慶應義塾評議員・理事、連合三田会会長、日本外科学会特別会員、日本内視鏡外科学会名誉会長、日本消化器内視鏡学会名誉会員、日本レーザー医学会相談役など枚挙に遑がありません。また、先生は国内のみならず海外の様々な医学会においても、大変多くの功績を残されました。ここに少しご紹介をいたしますと、ドイツ外科学会名誉会員（1998 年）、ドイツ学士院会員、国際胃癌協会の財務理事（1993 年−2007 年）、ドイツ国立科学アカデミー・レオポルディーナ会員（1997 年）、Langenbeck's Archives of Surgery の編集委員（1998 年）、韓国大学およびシンガポール大学客員教授（1994 年）、ポーランドのヴロツワフ大学の名誉博士号（2006 年）など、海外でも大変ご活躍をなさったことが偲ばれます。また 1977 年以来、万国外科学会（ISS/SIC）において大変重要な役割を果たされ、特に 1997 年から 2004 年までは Councillor をお務めになり、その後 2007 年には万国外科学会への多大なる功績によって名誉会員に選出されております。さらに先生は 433 の出版物（239 の原著論文、104 の総説、45 の症例報告、および 45 の書籍 / 章）という素晴らしい業績を残され、また 1,078 回にも渡る学術発表をなさっておられます。

このような偉大な学術業績のみならず、オリンピアンでもある人徳と、温かいお人柄により数多くの人に愛されてきた比企先生のご逝去を悼み、心よりお悔やみ申し上げます。

International Surgical Week (ISW)2022 in Viennaに参加して

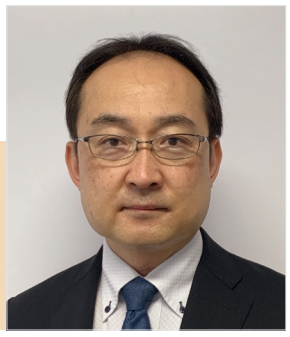
神戸大学大学院医学研究科
外科学講座食道胃腸外科学分野　教授
掛地　吉弘

2006年に万国外科学会の会員になっていましたが、ISWに参加したのは今年が初めてでした。機会を与えて頂いた今野弘之先生に深く感謝申し上げます。Covid-19の影響で2年半ぶりの海外出張となりました。旅行会社の勧めでカタール航空を利用し、ドーハを経由して南回りでウィーンにたどり着きました。日本出発の日は台風のために伊丹から成田行きの便を早め、深夜に成田を発ってドーハまで約12時間、ドーハからウィーンまで3時間余り、乗り継ぎを含めて丸一日半ほどかかりました。5年ぶりのウィーンの街中は、マスクも無く、観光客も戻って賑やかさを取り戻していました。

ISW 2022の会場は、ホーフブルク宮殿で、640年にわたりハプスブルク家の政治中枢であり居城であった宮殿です。初日のopening ceremonyに続いてProf. John G. HunterによるPresident's Addressでは117年にわたるISWの歩みが語られました。宮殿内の各部屋を利用して 最先端のtopicが発表され、活発な質疑応答が成されました。Coffee breakも挟んでの程良いプログラムで、世界各国からの外科医と交流することができました。やはり現地で対面での国際学会はweb参加の数倍の情報量が得られます。自らの食道・胃の悪性腫瘍のセッションでは松原久裕先生にご司会いただき、胃癌のD2郭清と周術期の補助化学療法について発表させて頂きました。同じセッションで発表したProf. Lorenzo Ferriには今野先生にご紹介いただき、その後も様々な話をすることができました。

万国外科学会には6つのIntegrated Societyがあり、それぞれが機能的に、かつ有機的な繋がりをもって活動しています。夕食を共にするpartyも各Societyが単位になっており、私はInternational Society for Digestive Surgery（ISDS）に属するのですが、International Association for Surgical Metabolism and Nutrition（IASMEN）と合同のDinner Partyもあり、IASMENの大御所の先生方と話す機会にも恵まれました。本学会ならではの裾野の広さと多くの方々の温かさを肌で感じることができました。欧米からの参加者に加え、南アフリカ等のアフリカ諸国やインド等のアジア諸国からも多数の参加があったようで、世界各国から約900名の参加があり、事務局の運営も親切で必要な情報を適宜届けて頂きました。今回はCovidの感染状況が読めなかったので単身で参加しましたが、次回は是非教室員とともに参加したいと強く思いました。日本支部を支えてこられた先輩方に感謝し、若手に本学会の良さを伝えて参りたいと存じます。

International Surgical Week (ISW)2022 in Viennaに参加して



浜松医科大学外科学第二講座　准教授
菊池　寛利

2022年8月15～18日にAustriaのViennaにてISW 2022が開催されました。2021年にKuala LumpurにてWCSがCOVID-19 pandemicのためVirtual Meeting（VSW2021）となり、Executive Committee MeetingもOnlineであったため、実に3年ぶりのISSメンバーとの現地での再会となりました。私も2年半ぶりの海外でしたので、少々張り切ってFrankfurtからレンタカーでVienna入りし、往復約1,800kmを走破しつつ、各地方を見て参りました。日本では第7波の真っ只中でしたが、ドイツでもオーストリアでもマスクの着用率は低く、特にViennaでは病院や公共交通機関でのFFP2マスク着用義務がある以外はほぼフリーで、街中でも学会場でもマスク姿の人はごく少数でした。ただし、当時は日本便搭乗時にPCR陰性証明が必要であり、万一陽性となると帰国難民となってしまうため、人混みは避け学会場ではFFP2マスクを着用しておりました。幸い、私を含め日本から参加の先生方は全員無事に帰国したと伺っております。

学会はViennaの中心にあるHofburg王宮にて行われ、約900名が参加し大変盛会でした。私はISDS sessionを中心に参加しましたが、各sessionでdiscussionが盛り上がり、現地開催の良さを再認識いたしました。最終日にはISS/SIC free paper（Surgical Education）のmoderator担当の機会をいただき、International Association of Student Surgical Societies（IASSS）の活動内容を初めて知り、南アフリカを中心とした医学生の熱量に驚きました。セッション終了後にIASSS membersと対談し、是非日本の医学生との交流を図りたいとの要望を伺いました。IASSSは世界各国のStudent surgical societiesと連携しておりますが、日本には該当する学生組織がないため、今後どの程度関係を構築・発展できるかは未知です。そのため、先ずは浜松医科大学と慶應義塾大学にて外科志望の学生数名を募り、IASSS memberとのZoom talkから始めてみようと計画しております。今後の方向性については十分な検討が必要ですが、日本全体の外科志望学生に活動を広げる際には、ISS日本支部が支持組織として最適と考えます。国際感覚を持った若手外科医の育成も重要な課題ですので、皆様のお力を拝借できれば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

会場のHofburg王宮

ISDS sessionにて

IASSS日本支部設置へむけた初会合が開催

IASSS（International Association of Student Surgical Societies）は、外科領域を志す医学生の国際交流、また外科教育に関する研究を目的とした国際団体です。現在103の国々が加盟していますが、本邦はまだIASSSに加盟していません。

本年度の万国外科学会（2022年8月）にてIASSS日本支部の設置が提案され、そのキックオフミーティングが11月6日20時（日本時間）からWeb会議（Zoom）で開催されました。

IASSSを代表してDr. Sulé Burger（南アフリカ）、学生代表としてMs. Jessica Davies（南アフリカ）が、日本から医師代表として浜松医科大学より7名（菊池、臼井、黒田、松本、岩瀬、三須、一瀬、敬称略）、慶應義塾大学から堀、また両大学の医学生計5名が参加しました。まずDr. BurgerからIASSSの概要を、菊池先生から日本の若手外科医を取り巻く環境について発表いただきました。その後IASSS日本支部設置に向けた手順が討議され、まず万国外科学会（ISS）日本支部にIASSS日本支部の支援組織となっていただく必要性などを確認しました。外科を志す本邦の医学生に世界で活躍する機会を提供するため、貴支部にはIASSS日本支部設立にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

文責：堀周太郎（慶應義塾大学医学部　外科学教室）

株式会社ツムラの医療関係者向けサイト
TSUMURA MEDICAL SITE
https://medical.tsumura.co.jp
漢方情報を
ネットから!

セミナーや講演会、
動画コンテンツなど
さまざまな漢方情報が
ご覧いただけます。
ツムラ
ご登録は
こちらから
https://medical.tsumura.co.jp/reg
Web講演会の参加申し込みや視聴予約、
オンデマンド動画のご視聴には会員登録が必要です。
医療関係者の皆様のご登録をお願いします。
資料請求・お問い合せはお客様相談窓口まで　【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970　(2021年10月制作)A 審

Yokohama Award of Inaternational Surgical Week 2022 Vienna, Austria　受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の WCS への参加を支援する目的で創設されました。WCS に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます（応募には日本支部会員による推薦が必要）。第 4 回である Yokohama Award ISW2022 Vienna は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 5 名の先生が受賞 しました。 受賞者は ISS/SICFoundation Travel Scholarship をはじめとする他の Travel Award 受賞者とともに 8 月 15 日に開催された Presentationof Travel Scholars での表彰式にて受賞者の紹介、証書の授与を受けました。

済生会横浜市東部病院　救命救急センター
山口　敬史

演題「Preoperative total psoas muscle index predicts functional decline after emergency abdominal surgery in elderly patients」

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、2022 年 8 月にオーストリア・ウィーンで開催されました the 49th World Congres of Surgery におきまして YokohamaAward を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

今回、私は緊急手術を要する高齢者の身体機能の変遷について発表致しました。単施設の後向き観察研究ではありますが、緊急手術領域の Evidence の蓄積の一助となれば幸甚です。このような賞を受賞することが出来たのは一重に恵まれた上司からの指導、同僚からの協力があったからこそと感じています。改めてこの場を借りて御礼申し上げます。このような大変貴重な機会を頂き、ISS/SIC 関係者の皆様に深く御礼申し上げるとともに、より一層臨床、研究に精進する次第です。本当にありがとうございました。

大分大学医学部　消化器・小児外科学講座
小川　雄大

演題「A new optical biopsy technique for detection of aganglionosis in Hirshsprung disease by using Raman spectroscopy combined with deep learning」

この度は Yokohama Award を授与して頂き、誠にありがとうございました。

臨床・研究に明け暮れる毎日から 1 歩外に出た空気は新鮮であり、コロナ禍におけるウィーンでの学会参加は非常に貴重な経験となりました。診療科と国境を超えた ISW への参加は、これからの外科診療に生かすための知識を多く与えてくれました。

本研究・発表を遂行する上でご指導、ご鞭撻とご援助を頂いた方々に改めて感謝を申し上げます。

日本医科大学付属病院内分泌外科　助教
數阪　広子

演題「Patient anxiety during active surveillance for low-risk papillary thyroid carcinoma is relieved after 5 years: a QoL study with long-term follow-up」

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度 Yokohama Award を受賞させていただきました。当研究は甲状腺微小乳頭癌患者の治療選択において、積極的経過観察法と即時手術法の患者 QoL の比較、また不安の軽減因子について検討したものです。

私にとっては初めての国際学会参加、また口演発表ということもあり大変に緊張しましたが、座長の先生方および IAES President である宮内先生から有難い励ましのお言葉をいただき感動しました。会場では様々な先生方の発表を聞く中で、内分泌外科分野における日本と各国との違いを改めて実感しました。本研究が同分野の今後の発展につながるよう、日々研鑽を積んでいく所存です。

ご指導いただいた先生方、またこのような大変貴重な機会を与えてくださった万国外科学会日本支部の皆様に深く感謝申し上げます。

慶應義塾大学医学部　外科学（一般・消化器）
東　尚伸

演題「Transplantation of bioengineered liver graft with decellularization technique improved liver function in a preclinicial liver failure model」

この度は、第 5 回 Yokohama Award 受賞の栄誉に際し、万国外科学会日本支部長の今野弘之先生、ご推薦頂きました八木洋先生に心から感謝申し上げます。

私は脱細胞化技術を用いて作成した人工肝臓グラフトの肝不全モデルブタへの移植と機能発現に世界で初めて成功したことをご報告させて頂きました。

COVID-19 第 7 波の影響で現地参加が叶わず、大変残念でしたが、本受賞を励みに今後も精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

東京医科歯科大学大学院　肝胆膵外科　助教
上田　浩樹

演題「How do we manage stapler laceration of pancreatic capsule during laparoscopic distal pancreatectomy?」

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度はオーストリア、ウィーンにて開催された WCS2022 において、第 5 回 Yokohama Award を受賞させて頂き、大変光栄に存じます。私は当科教授田邉の指導・引率の下、腹腔鏡下膵体尾部切除術中に膵切離を Stapler で行った際の、被膜損傷と術後膵液漏について発表させていただきました。国際学会での口頭での発表という貴重な機会はもちろん、期間中に学会参加の諸先生方、とりわけ上尾中央総合病院若林剛先生や国際医療福祉大学吉田昌先生には本当に色々御指導頂き、私にとって忘れられない、大変有意義な、楽しい学会となりました。WCS 関係者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ISW 2022 in Vienna 開催報告

慶應義塾大学医学部　外科学教室
Secretary General
八木　洋

本年 8 月 15 日～ 18 日にオーストリア（ウィーン）のホーフブルグ宮殿にて開催されました、International Surgical Week（ISW）2022, 49th Congress of the International Society of Surgery（ISS）につきまして、日本支部会員の皆様におかれましては、COVID19 の厳しい水際対策の中多くのご参加を賜りましたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

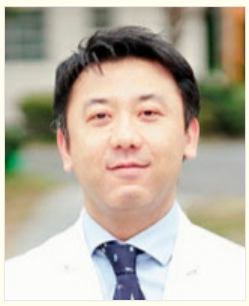
参加にあたりましては、ウィーンからの帰国前 72 時間以内の現地での PCR 検査陰性証明書提出とワクチン 3 回接種の必要性など、煩雑な諸手続きがございました。日本支部事務局といたしましては、ご参加される皆様が滞りなく無事ご帰国いただけるように、事前情報の収集に奔走いたしました。現地ではウィーン中心部に PCR センターがあることがわかり、予約も簡単で最短 2 時間で厚労省書式の陰性証明書を発行していただけることがわかりました。一方で帰国の際に必要なアプリケーションである MySOS の入力準備など、通常とは異なる煩雑な手続きが必要でありましたため、ご参加予定の会員の皆様には多大なるご心配をおかけいたしました。それにも関わらず日本から 44 名と多くの先生のご登録を賜りました。事前準備に当たりましては今野弘之支部長に多大なるご尽力を賜りましたことに深謝申し上げます。

本会ではウィーンならではの荘厳な会場で、日本人の若手外科医の中から 5 名の先生方が名誉ある Yokohama Award の表彰を受け、大変良い経験になったことと存じます。本会で特筆すべきことは、欧米からの参加者に加え、学会の積極的な支援策の元で、南アフリカ等のアフリカ諸国やインド等のアジア諸国から多数の参加があったことです。発表内容も、新興国における外科医療の工夫などアイデアに富んだものが多く、普段接する専門的な仕事とは異なる大変興味深い内容で、幅広い分野を包含する ISW ならではのインパクトと可能性、また新興国の外科医の ISW に対する強い期待とエネルギーを実感いたしました。終了後の公表では、現地参加者は 888 名、抄録登録数 718、セッション数 103 とされており、非常に活発な議論はもとより医学生を含む多くの若い参加者の熱量に、あらためて ISW の歴史と可能性を強く感じ、引き続き日本支部事務局の任務を全うする重要性を再認識いたしました。最後に日頃より本会の運営に多大なるご尽力をいただいております会員の皆様に心より感謝申し上げ、2022 年 ISW のご報告とさせていただきます。

ホーフブルグ宮殿本会場にて
今野弘之支部長（右）と筆者（左）

information

万国外科学会日本支部ニュース
Breast Surgery International（BSI）ご報告



岡山大学病院　乳腺・内分泌外科
准教授 / 診療科長
Councilor of BSI
枝園　忠彦

2022 年 8 月に ISW2022 と合わせて行われました BSI に関しましてご報告いたします。

岡山大学病院　乳腺内分泌外科　枝園忠彦と申します。この度、これまで 4 年間 BSI の council member を務められた、杏林大学乳腺外科教授　井本滋先生よりご推挙いただき、本会で行われた BSI 2022-2024 council meeting にて新しく council member として承認いただきました。井本先生には国立がん研究センターでレジデントとして修練を行っておりました際に初めて乳腺外科特に当時一般化され始めましたセンチネルリンパ節生検の基礎をご教授いただき、それ以後これまで多くのご指導を賜っております。今回の council member につきましても、私には勿体ないお話でございましたが井本先生のご推挙とあって、お引き受けさせていただいた次第です。ほかのグループの先生方の本会におけるアクティビティは非常に高いとのこと、BSI もしっかりと皆様についていけるよう尽力してまいります。特に、世界の乳腺外科領域における日本のプレゼンスを上げ、若手外科医が世界で活躍する機会を多く作っていこうと考えております。どうぞ、ご指導よろしくお願いいたします。

それでは、改めまして BSI の現状と今後につきましてご報告いたします。BSI は今回私を含めて 3 名が council member として新規参加となっております。本年より President は Professor Surgery オーストラリアの University of Queensland の Owen A. Ung 教授がご就任されました。

BSI は世界における若手乳腺外科医の教育を柱の一つとして、活動の計画を立てております。中でも、近年の遺伝性乳癌に対する予防的切除の普及によって増加傾向の乳房再建術やオンコプラスティックサージャリーの領域には、乳腺外科医の間でも世界的にニーズの高まりがあります。今後 BSI においてもこの領域を学ぶことができる企画を増やしていくことが議論され、来年行われる教育セッションでも内容に加える予定となりました。さらに本領域では Global Breast Hub Group と連携することで活性化を進めていくことが決まっております。また若手外科医が入会しやすくするために、若手向けの会費の設定を増設することも議論されました。

そのほか中村清吾教授が council member の時に始められた、乳房超音波技術の教育も継続して行われます。加えて乳腺外科領域の臨床試験や新規開発につきましては、日本以外ではあまり行われていないようであり、この分野では我々が中心となって最新エビデンスやその作り方を、若手外科医に広めていけるのではないかと感じました。

次回 BSI は　ISW2024 に合わせてクワラルンプールで行われます。多くの若手乳腺外科会員とともに参加できるよう、会の内容の充実と広報に努めてまいります。

50th World Congress of Surgery
International Surgical Week 2024 KL（ISW2024 マレーシア）
2024 年 8 月 25 日（日）～ 29 日（木）　～ Kuala Lumpur

ご案内

2024 年 8 月 25 日（日）～ 29 日（木）の 5 日間、マレーシアのクアラルンプールにおきまして、International Surgical Week 2024 KL（ISW2024 マレーシア）が開催されます。

日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

主な日程（予定）

8 月 25 日（日）：Pre-congress Workshop
17：00 ～ Opening Ceremony & Opening Trade Exhibition
8 月 26 日（月）～ 29 日（木）：学術プログラム開催
演題登録締め切り　2024 年 1 月 31 日（水）
※変更される場合がございますので、最新情報は HP をご確認ください。

Yokohama Award
5 名程度　Award 一人当たり 10 万円
ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の ISW の参加を支援しています。
応募条件は、応募時点に 40 歳以下の日本人外科医で、① ISW2024 クアラルンプールに Oral の演題を提出、かつ② ISS/SIC の日本支部会員からの推薦があることです。

Collective Member Societies

IASMEN International Association for Surgical Metabolism and Nutrition　BSI ISS/SIC　IES International Association of Endocrine Surgeons　iatsic International Association for Trauma Surgery and Intensive Care　ASAP The Alliance for Surgery and Anesthesia Presence Today

きのう、今日、明日。
やってくる日々を穏やかに過ごせるのは、健康があってこそ。

もしも、慢性腎臓病治療にとっての希望になれたら。

たくさんの患者さんの、小さな我慢やつらさをやわらげ、
毎日の一歩いっぽが、きっと軽くなる。

私たちは慢性腎臓病治療に貢献し、
患者さんの未来に、希望をめぐらせたい。
そう思っています。

小野薬品工業株式会社　アストラゼネカ株式会社

2021年12月作成

血液凝固阻止剤
アコアラン®静注用600・1800
600国際単位、1800国際単位／バイアル
アンチトロンビン　ガンマ（遺伝子組換え）静注用
ACOALAN® Injection
生物由来製品　処方箋医薬品注）（注意-医師等の処方箋により使用すること）　薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
協和キリン株式会社
東京都千代田区大手町1-9-2

販売元
一般社団法人
日本血液製剤機構
東京都港区芝浦3-1-1

ACO-202208

［文献請求先及び問い合わせ先］　日本血液製剤機構　くすり相談室
〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1　医療関係者向け製品情報サイト　https://www.jbpo.or.jp/med/di/